

JAL被解雇者労働組合（JAL 争議団）

3/2 院内報告集会

info@jhu-wing.main.jp

<https://jhu-wing.main.jp/>



3月2日に衆議院第一議員会館多目的ホールにおいて、国会議員有志・JAL 不当解雇撤回争議団・JAL 被解雇者労働組合の3者主催による院内報告集会が行われました。2020年9月に行われた院内勉強会以来であり、この間、被解雇者組合の結成、社内2労組の争議終結など、大きな情勢の変化があった中での開催でした。党派を超えて議員や秘書の方々が17名出席して下さい、JALに争議の全面解決を決断させるべく、皆で団結して大きく運動を上げていくことを改めて確認しました。

国会開催中のお忙しい中、院内報告集会の開催にご尽力頂いた福田昭夫衆議院議員（立憲民主党）、また、ご出席頂いた議員の皆様や秘書の皆様にご心から感謝致します。

福田昭夫議員による開会のご挨拶



超党派の応援団国会議員団20名の内の一人です。国土交通委員会での質問、国交省・労働委員会への要請等を行いました。私を風よけとして使って頂きたい。不当解雇から12年経っても何の解決も示さないJAL。ILOから4回も勧告を受けながら何もしない。日本を代表する世界的な企業が呆れるばかり。我々の団結を強固にして、この争議が解決し、働く人を大切にする国にしていくためのきっかけとなる集会にしたい。

<ご出席頂いた議員の方々>

- 福田昭夫衆議院議員（立民）
- 高橋千鶴子衆議院議員（共産）
- 山本朋広衆議院議員（自民）
- 川田 龍平参議院議員（立民）

<ご出席された13名の秘書の方々>（ご到着順）

- ・福田昭夫議員秘書（衆・立民）
- ・宮本 徹議員秘書（衆・共産）
- ・福島瑞穂議員秘書（参・社民）
- ・石川香織議員〃（衆・立民）
- ・松木謙公議員〃（衆・立民）
- ・石橋 通宏議員〃（参・立民）
- ・落合貴之議員〃（衆・立民）
- ・高良鉄美議員〃（参・沖縄の風）
- ・高橋千鶴子議員〃（衆・共産）
- ・芳賀道也議員〃（参・無所属）
- ・永江孝子議員〃（参・無所属）
- ・田村 智子議員〃（参・共産）
- ・穀田恵二議員〃（衆・共産）

国会議員からの発言

山本朋広衆議院議員（自由民主党）



JAL は自主的に解決しなければならぬ。解雇争議をきちっと解決して、気持ちよく JAL の飛行機に乗りたい。団交を続けて一日でも早く解決できるように国会から注視していく。色々な問題を乗り越えて、自民党からも皆さんと共に活動したいと思っている者がいるので、安心して取り組んで頂きたい。

川田龍平参議院議員（立憲民主党）



「業務委託」が言われているようだが、未だ全面解決していない。この問題について皆さんの頑張りを応援したい。これまでの取り組みをしっかり受け止めて、厚生労働委員会の筆頭理事ですので、今後の労働問題について取り組んでいく中で、機会があれば取り上げていきたい。

高橋千鶴子衆議院議員（日本共産党）



今、安全を確保し運航していくには解雇すべきではなかったことが改めて証明されている。現場で頑張っている人も人員が削減されている中で大変な思いをしている。労働の分野では、解雇の金銭解決、失業なき労働移動等が声高に叫ばれている。コロナの中で航空会社が取組んできた副業や出向が、コロナ後も当たり前になってしまう。働き方の壊され方が始まっている。「解雇は許さない、労働者の権利を守れ」と闘ってきた皆さんの闘いを真ん中に据えて、働く皆さんの権利を守る論戦を国会でやっていきたい。

川田龍平議員より、皆さんと同じ気持ではないかということで、上梓された本「龍平 生き抜く勇気をいのちを守る世界をつくるために」が進呈されました。

醍醐聰東京大学名誉教授

学者・弁護士を代表しての発言



今、自由な働き方、柔軟な働き方の名目で雇用によらない労働が広がっている。雇う側の使用者責任は横に置き、働く側には労働法の保護を受けられない仕組み。業務委託が大企業で導入された意味は決して小さくない。当事者の問題でなく、全体で考えなくてはならない問題。2015年4月に初鹿明博衆議院議員が、解雇者優先雇用制度について質問主意書を出している。当時、安倍総理は答弁書で、「労働委員会は労働組合の申立てを受けた時は、個別の事案に即して判断し、団体交渉の応諾等を命ずることができる仕組みとなっている。ご指摘のILO勧告については、このしくみによって対応できていると考えている」と述べている。今政府の答弁書通りの対応になっていない。締約国である政府の責任で対応が問われている。団体交渉に誠実に対応するというのは、政府の答弁書でもやらなければならない。

上条貞夫弁護士



困難な事態の中で、このような集会が持てる、この力は大きく強く前進していることを実感する。この一番困難な時に、本来の基本的な要求を守り抜き、JHU が結成され、それを支援する多くの仲間が益々強く逞しく全国に発展している事実は、何物にも代えがたい力だと思う。



JHU、争議団からは

- ① 山口委員長から「雇用と安全を柱に闘う」決意表明
- ② 山崎書記長から、前回の院内勉強会以降の争議経過と現状
- ③ 乗員・客乗争議団から齋藤事務局長と石賀さんが思いを発言
- ④ 会場の5名の方からの質問と感想に3役が回答
- ⑤ 鈴木客乗争議団長が、「JAL と国交省を包囲し、解決を決断させるための広範な運動を展開し、皆が納得できる解決をめざして頑張っていく」と述べ、集会を締め括りました。

